

診療科目：消化器内科

カテゴリー：必修科目、選択科目

一般目標：消化器内科医としての基本的態度、診療の原理原則を認識し、消化器疾患に対する病態の理解、検査、治療手技の修得に努める。

【個別目標】

- ・消化器疾患（消化性潰瘍、イレウス、急性胆嚢炎、急性胆管炎、総胆管結石、急性膵炎、急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞癌、膵・胆管癌、潰瘍性大腸炎、クローン病、胃癌、食道癌など）を経験し、病態を理解する。
- ・消化器症状（嚥下困難、胸やけ、嘔気、嘔吐、腹痛、吐血、下血、血便、下痢、便秘、腹部膨満、食欲不振、体重減少、腹水、黄疸、肝性脳症など）の機序を説明し、病歴聴取、診察、検査の指示ができる。
- ・消化器救急患者の初期対応において必要な検査、治療の立案ができる。
- ・消化器検査（上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、内視鏡的逆行性胆管膵管造影、超音波内視鏡検査および穿刺、肝生検、注腸造影検査、小腸造影など）の概要を理解し、患者への説明ができる。
- ・採血、内視鏡、造影、画像検査の結果を解釈し、治療方針を立案できる。
- ・消化器治療手技（内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術、内視鏡的静脈瘤結紮術、内視鏡的経鼻胆管ドレナージ、内視鏡的逆行性胆管ドレナージ、経皮内視鏡的胃瘻造設術、イレウス管挿入、経皮経肝的胆道ドレナージ、経皮経肝胆道ドレナージ、経カテーテル的肝動脈化学塞栓術、ラジオ波焼灼術など）の概要を理解し、患者への説明ができる。
- ・単独で腹水穿刺ができる。
- ・内視鏡操作の基本（持ち方、ボタン配置等）を理解する。
- ・内視鏡挿入法を理解し、生検の介助ができる。
- ・内視鏡（上部、下部）を操作し観察を経験する。
- ・緊急内視鏡検査を経験し、止血処置、胆道ドレナージ等の介助ができる。
- ・学会研究会において担当症例の発表を行う。

【指導原則・方法】

- ・消化器内科の病棟を担当し、指導医とともに診療にあたる。
- ・症例カンファレンスに参加し、担当症例のプレゼンテーションを行う。
- ・指導医の外来に参加し、診療補助・検査補助を行う。
- ・内視鏡検査に参加し、検査や治療の補助および実施を行う。緊急内視鏡に積極的に参加する。

- ・ 消化管造影、腹部エコー等の検査に参加し、検査の補助および実施を行う。
- ・ 肝腫瘍生検、経皮経肝的肝癌局所治療、肝生検等の特殊検査に参加し、検査の補助を行う。
- ・ 研修期間に応じて定められた行動目標の達成に努める。